

# 校長だより

和歌山市立八幡台小学校

2021.05.19

NO, 4

## <個と公>

今回もトイレ発想の話です。大休憩後のトイレのスリッパですが…あっち向きこっち向きで、まったくバラバラ状態でした。子どもたちも時間のない中、慌ててトイレに行ったのかもしれませんが、次に使用する人にとっては困った話です。みんなで使うもの、公のものへの気遣いにはまだまだ課題を感じました。実は、その前に学級を回っていたのですが、きれいにそろえられていたペン



ケースが印象に残っています。使ったら丁寧に片づけてきれいにしてるな、と感心しました。この、個人：個への気持ちが公へ向けられると、随分と住みやすい世の中になってくるのでは、と思います。小学生時代、特に低学年では、まずは自分のこと、個の充実を目指します。それとともに、様々な活動に取り組んだりいろいろな人と出会ったりする中で、年齢を重ねるとともにより広い視野をもつことができる子どもになってほしいと願っています。これからの世の中を支えていく子どもたち、自分のことは無論、仲間、公も大切にしていける人となってほしいものです。

## 各教室訪問から

各教室を訪問しての感想です。「ん？こういう内容は昔はなかったなあ～」と思ったのが「学童保育と待機児童」というところでした。確かにメディアでもよく報道されている通り、現代社会では大きな課題となっています。子どもたちは資料からいろいろな情報を読み取り、発表していました。核家族化、女性の社会進出など、社会の変化がもたらした現代社会の問題、子どもたちはどう感じたのでしょうか。自分を振り返り「僕も若竹学級に通ってた」「でも、もう行かなくなった」「自分で留守番できるし」いろいろな意見をつなげていましたね。あ、核家族の具体例で野原一家とありましたが、たしかにサザエさんやチビまる子ちゃん一家と比べると違いは明らかですね！

子どもの発言ということでコメントすると、見ていたクラスでは、子どもたちは単語ではなくセンテンスを話していました。自分の思い、考えを、これまでの経験や資料から読み取ったデータ、推測などをもとにしっかりと話をしてくれていました。高学年になると成長するもんだなあ、と感心しました。そういえば、家族でよく話をする子どもは、相対的に感性や感情が豊かであると聞いたことがあります。学校でも家庭でも、しっかりと話をする子どもたちになってほしいものですね！